

研究拠点形成事業 平成24年度 実施計画書

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関:	京都大学霊長類研究所
(コンゴ民主共和国) 拠点機関:	生態森林研究センター
(コンゴ民主共和国) 拠点機関:	キンシャサ大学
(ギニア共和国) 拠点機関:	ボツソウ環境研究所
(ギニア共和国) 拠点機関:	ンゼレコレ大学
(ウガンダ共和国) 拠点機関:	ムバララ科学技術大学
(ウガンダ共和国) 拠点機関:	マケレレ大学

2. 研究交流課題名

(和文): チンパンジー属類人猿の孤立個体群の保全に関する研究
(交流分野: 自然人類学)

(英文): Conservation of isolated populations of great apes of the genus Pan
(交流分野: Physical anthropology)

研究交流課題に係るホームページ:

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/sections/aaspp/index.html>

3. 採用期間

平成 24年 4月 1日 ~ 平成 27年 3月 31日
(1 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関: 京都大学霊長類研究所

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名): 所長・平井啓久

コーディネーター (所属部局・職・氏名): 教授・古市剛史

相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

（1）国名：コンゴ民主共和国

拠点機関：（英文） Research Center for Ecology and Forestry

（和文） 生態森林研究センター

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

General Director・MONKENGO-MO-MPENGE Ikali

（2）国名：コンゴ民主共和国

拠点機関：（英文） University of Kinshasa

（和文） キンシャサ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Faculty of Science・Professor・BEKELI Mbomba Nseu

（3）国名：ギニア共和国

拠点機関：（英文） Environmental Research Institute of Bossou

（和文） ボッソウ環境研究所

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

General Director・SOUMAH Aly Gaspard

（4）国名：ギニア共和国

拠点機関：（英文） University of N'Zerekore

（和文） ンゼレコレ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Faculty of Environment・Researcher・BAMAMOU Cece

（5）国名：ウガンダ共和国

拠点機関：（英文） Mbarara University for Science and Technology

（和文） ムバララ科学技術大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Faculty of Science・Dean・ANGUMA Simon

（6）国名：ウガンダ共和国

拠点機関：（英文） Makerere University

（和文） マケレレ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文）

Department of Zoology・Associate Professor・BARANGA Deborah

5. 全期間を通じた研究交流目標

日本の霊長類学は、ヒトのルーツを探ることを目標として、50 年以上前から類人猿の野外研究を続けてきた。とくに京都大学霊長類研究所は、ヒトにもっとも近いチンパンジー (*Pan*) 属のチンパンジーとボノボの長期調査地を 3 か所もかかえ (チンパンジー：ギニア共和国・ボソウ、ウガンダ共和国・カリンズ、ボノボ：コンゴ民主共和国・ワンバ)、霊長類学の国際的センターとなっている。しかし現在、これらの調査地の個体群は、森林伐採や農地開発などによって孤立し、地域住民の森林資源の利用による植生の質の低下、密猟等の違法行為、孤立による遺伝的多様性の低下、ヒトから類人猿への病気の感染など様々な要因によって、存続上の危機にさらされている。本計画では、これらのリスク要因を回避するための自然科学・社会科学的調査・研究を行ってその成果をそれぞれの調査地での保全の実践に生かし、さらにその手法を同様の問題をかかえるアジア・アフリカの様々な類人猿生息地に発信していくことを目標とする。

当研究所は、平成 21～23 年度にアジア・アフリカ学術基盤形成事業の支援を受けて、コンゴの生態森林研究センター、ギニアのボソウ環境研究所、ウガンダのムバララ科学技術大学とネットワーク型の研究基盤を築いて類人猿の環境適応機構についての比較研究を行ってきた。この結果、日本・アフリカ間のみならずアフリカ側拠点機関間の交流も深まり、アフリカ側研究者の学術的意識と研究能力も飛躍的に高まった。本計画では、あらたに 3 つの拠点機関を加えてネットワークの拡充と強化を図り、本研究課題のみならず、将来様々なテーマの類人猿の比較研究をアフリカ側研究者と協力して行える土俵としたい。また、23 年 8 月にコンゴで行った締めくくりの国際シンポジウムでは、アフリカ側拠点機関から、このネットワークをもとにアフリカ霊長類学会の設立を目指すべきだとの提言があった。日本の主導によってアフリカ霊長類学会を設立するというこの長年の夢についても、本計画の 3 年間に実現にむけた道筋をつけたい。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 24 年度から開始

7. 平成 24 年度研究交流目標

日本人若手研究者 3 名が 3 か国に各 1 名ずつ 2～3 か月程度出張し、現地国の研究者と共同研究を行う。長期にわたるデータ収集は、各現地国の研究者に継続してもらうため、初年度に研究協力体制の構築を確立する。アフリカの 6 つの研究拠点の研究者各 1 名を霊長類研究所に招き、15 日間のセミナーを開催する。セミナーでは、糞サンプルからの DNA と病原抗体の抽出と分析および住民の森林資源利用のモニタリングの方法のトレーニング、保全計画の立案に不可欠な GIS (地理情報システム) のデータ解析についての講習、保全計画立案に際しての意見聴取や交渉の進め方についての講習を行う。アフリカの研究者だけでなく、霊長類研究所や他大学の若手研究者の参加も呼びかけ、本計画

の遂行に不可欠な自然科学・社会科学的調査・研究の基礎を習得できる機会を提供する。研究者交流のため、ギニアおよびウガンダの3拠点機関から、各1名の研究者が2週間程度コンゴの生態森林研究センターに赴き、調査地と研究体制の視察、研究成果の相互報告、今後の共同研究体制の相談などを行う。

8. 平成24年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 24 年度	研究終了年度	平成 26 年度	
研究課題名	(和文) チンパンジー属類人猿の孤立個体群の保全に関する研究 (英文) Conservation of isolated populations of great apes of the genus Pan					
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 古市剛史・京都大学霊長類研究所・教授 (英文) Takeshi Furuichi・Primate Research Institute, Kyoto University・Professor					
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Monkengo-mo-Mpenge Ikali・Research Center for Ecology and Forestry・General Director Bekeli Mbomba Nseu・University of Kinshasa・Professor Soumah Aly Gaspard・Environmental Research Institute of Bossou・General Director Bamamou Cece・University of N' Zerekore・Researcher Anguma Simon・Mbarara University for Science and Technology・Dean Baranga Deborah・Makerere University・Associate Professor					
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流					
	派遣先	日本	コンゴ	ギニア	ウガンダ	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本		1/10 (5/500)	1/60	1/20 (2/90)	3/90 (7/590)
	コンゴ					
	ギニア					
	ウガンダ					
	合計		1/10 (5/500)	1/60	1/20 (2/90)	3/90 (7/590)
	② 国内での交流					
	0 人/人日					

日本側参加者数	
13 名	(12-1 日本側参加研究者リストを参照)
コンゴ・生態森林研究センター側参加者数	
10 名	(12-2 相手国(コンゴ・生態森林研究センター)側参加研究者リストを参照)
コンゴ・キンシャサ大学側参加者数	
4 名	(12-3 相手国(コンゴ・キンシャサ大学)側参加研究者リストを参照)
ギニア・ボソウ環境研究所側参加者数	
5 名	(12-4 相手国(ギニア・ボソウ環境研究所側参加者数)側参加研究者リストを参照)
ギニア・ンゼレコレ大学側参加者数	
2 名	(12-5 相手国(ギニア・ンゼレコレ大学)側参加研究者リストを参照)
ウガンダ・ムバララ科学技術大学側参加者数	
6 名	(12-6 相手国(ウガンダ・ムバララ科学技術大学)側参加研究者リストを参照)
ウガンダ・マケレレ大学側参加者数	
6 名	(12-7 相手国(ウガンダ・マケレレ大学)側参加研究者リストを参照)
24年度の 研究交流活動 計画	計画の初年度にあたるため、日本人研究者が3つの相手国に出張して、現地国の研究者と共同研究を継続するための基礎作りをおこなう。類人猿個体群の遺伝的多様性についての研究とヒトから類人猿への病気感染についての研究では、効率よくDNAや病原抗体を抽出できるための糞・尿試料の収集方や、必要な付帯情報の記録方法などを伝える。また、森林資源の利用に関する研究では、各家庭による利用資源量の記録方法について伝える。これらの試料・情報の収集は、日本人研究者が不在の場合でも各現地国の研究者が継続できるようにする。各調査地では今までも日本人研究者の研究を補助する形での調査研究活動がおこなわれているが、それをさらに発展させ、各調査地で現地の研究者らによる自律的な研究活動がおこなわれるような体制を構築する。

24年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	初年度に日本人研究者を派遣して共同研究を実施することで、次年度以降の研究交流活動および研究調査の継続を円滑におこなうことが可能になると期待される。
---	---

8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「霊長類個体群の保全に関する研究手法」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “Study methods for conservation of primate populations“
開催期間	平成24年 10月 16日 ~ 平成24年 10月 30日(15日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、犬山、京都大学霊長類研究所
	(英文) Japan, Inuyama, Primate Research Institute, Kyoto University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 古市剛史・京都大学霊長類研究所・教授
	(英文) Takeshi Furuichi・Primate Research Institute, Kyoto University・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (日本)	
	A.	
日本 〈人/人日〉	A.	1/3
	B.	
	C.	10/110
コンゴ 〈人/人日〉	A.	2/40
	B.	
	C.	
ギニア 〈人/人日〉	A.	2/40
	B.	
	C.	
ウガンダ 〈人/人日〉	A.	2/40
	B.	
	C.	
合計 〈人/人日〉	A.	7/123
	B.	

	C.	10/110
--	----	--------

- A. セミナー経費から旅費を負担
- B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担
- C. 本事業経費から旅費を負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

セミナー開催の目的	セミナーでは、共同研究のために用いる糞サンプルからの DNA と病原抗体の抽出と分析の方法、住民の森林資源利用のモニタリングの方法のトレーニングを行う。また、アメリカの Meryland 大学から GIS（地理情報システム）の専門家を招き、保全計画の立案に不可欠な GIS のデータ解析についての講習を行う。さらに、ケニアの African Wildlife Foundation からアフリカの保全計画立案の責任者を招き、立案に際しての地元利害関係者の意見聴衆や政府および地元自治体との交流の進め方についての講習を行う。		
期待される成果	セミナーの開催によって、本計画の遂行に不可欠となるデータ収集および保全計画立案の具体的な手法を習得することができる。次年度以降も含めて研究交流活動を継続するためには必須であり、非常に大きい効果が期待できる。		
セミナーの運営組織	セミナーの運営には、日本側参加研究者が主として関与するものの、動植物の保全計画に関心をもつ霊長類研究所および他大学の若手研究者にも参加と運営への関与をつのり、国内外を問わず若手研究者交流を進めたい。		
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 旅費等全経費をまかなう	金額 4,310,000 円

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	コンゴ 〈人／人日〉	ギニア 〈人／人日〉	ウガンダ 〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉					
コンゴ 〈人／人日〉					
ギニア 〈人／人日〉		2/28			2/28
ウガンダ 〈人／人日〉		1/14			1/14
合計 〈人／人日〉		3/42			3/42
② 国内での交流 0 人／人日					

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
Environmental Research Institute of Bossou Research Associate Henry Didier Camara Gberegbe	D. R. Congo Mabali Research Center for Ecology and Forestry	2013年1月	研究活動の視察、共同研究の打ち合わせ
University of N'Zerekore Researcher Bamamou Cece	D. R. Congo Mabali Research Center for Ecology and Forestry	2013年1月	研究活動の視察、共同研究の打ち合わせ

Kabale University Lecturer Adalbert Omuchunguzi	D. R. Congo • Mabali • Research Center for Ecology and Forestry	2013年1月	研究活動の視察、共同研究の打ち合わせ
---	---	---------	--------------------

9. 平成24年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	コンゴ 〈人/人日〉	ギニア 〈人/人日〉	ウガンダ 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		1/10 (5/500)	1/60	1/20 (2/90)	3/90 (7/590)
コンゴ 〈人/人日〉	2/40				2/40
ギニア 〈人/人日〉	2/40	2/28			4/68
ウガンダ 〈人/人日〉	2/40	1/14			3/54
合計 〈人/人日〉	6/120	4/52 (5/500)	1/60	1/20 (2/90)	12/252 (7/590)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・人日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

1/3	〈人/人日〉
-----	--------

10. 平成24年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	51,500	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	6,320,000	
	謝金	100,000	
	備品・消耗品購入費	200,000	
	その他経費	72,500	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	316,000	
	計	7,060,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		706,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		7,766,000	

11. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	420,000	1/10
第2四半期	420,000	1/20
第3四半期	4,361,500	7/123
第4四半期	1,858,500	4/102
合計	7,060,000	13/255